

## 東海工業専門学校講演会報告

日時：平成31年4月24日（水）16:00～17:00

場所：東海工業専門学校金山校



今回の講演の趣旨は、土地家屋調査士の制度広報を通して、東海工業専門学校の学生たちが社会に出てからの職業選択肢拡大を目的として開催された。講演会には測量設計課、測量課、測量研究課の生徒60名が参加した。



講演を行う小島一晃会員

講師は愛知会会員であり、同校の卒業生である小島一晃会員が行った。小島会員は大学卒業後に同校に入学した。経歴として大学時代からオートバイレースを始め、2001年から2014年までFIM世界耐久選手権鈴鹿8時間耐久ロードレースに参戦していたが、2014年決勝レースで転倒しレース人生を終えた。現在はゴルフ、音楽活動（バンド）を行っている多趣味の小島会員が、専門学校を卒業してから現在まで、どのようにして土地家屋調査士を目指し、仕事を取り

組んできたのかなどのお話を織り交ぜた自己紹介から講演が始まった。

その後、主な講演テーマとして「土地家屋調査士とは？測量士、司法書士、行政書士との違い」「なぜ私が土地家屋調査士を目指したか？」「どうやったら土地家屋調査士になれるか？」「土地家屋調査士は生業になりうるのか？」「現在の仕事内容。土地家屋調査士から広がっていく仕事」「今後AI等に対して、士業が残っていけるかどうか」「土地家屋調査士の未来」を小島会員の今までの経験と人生観で話をされた。話の中で、土地家屋調査士が起点となり、そこから行政書士業務（開発業務、許認可業務）へ繋がる事が多く、都市開発へ役立っているとあった。



この講演を聞いて、学生たちには土地家屋調査士のことを始め、不動産登記のこと、境界のこと、所有権界のことなどが多少なりとも伝わったと思う。講演後に回収したアンケートからも「土地家屋調査士に興味をもった」「魅力を感じた」という声もあり、講演後の質疑応答の時間には何人かの学生から「どうしたら土地家屋調査士になれるのか」など具体的な質問もあり、有意義な講演内容だったと思う。質疑応答後、近藤副会長から締めの一言として学生たちに「今後どのような人生を望んでいますか？3年後または5年後にどんな自分になっているかイメージしてみてください。」そんな投げかけのメッセージで講演会を終了した。最後に、講演会に際し多大なるご協力をいただきました東海工業専門学校の成田先生を始め、同校の関係者の方々にはこのような機会をつくっていただき感謝いたします。

（広報部理事 佐藤千秋）